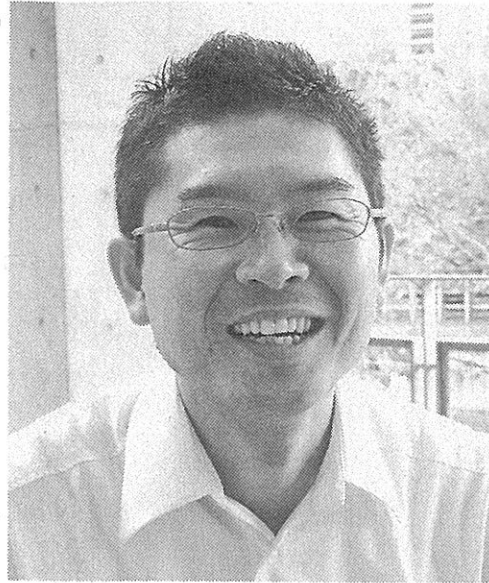


トークトーク
~talk&talk~

「現場と政策との間を埋める」
次の手が欲しかった！
生産現場での経験を農業政策にどう生かすかことができるのか、行政マンとして行き詰っていた。
そんなとき、出身母体の三重県農林水産部局で、政策研究大学院大学へ職員を派遣する話が上った。好機



三重県 農業戦略課職員 中村 領介氏

現場での経験を政策に

と考え、すかさず手を挙げた。2人の幼子を残し、単身での生活が始まった。同大に今年度から設置された農業政策コース。行政論や財政論、経済学、地域産業政策論などキャリアアップにつながる幅広い分野を学べる。
「キャリアの中では学ぶことのできなかつた領域を体系的に習得でき、学問的視点で業務を見つめ直すことができるようになった」
学生生活も半分を過

ぎ、残り6カ月。修士論文の執筆に取りかかる。テーマは自治体アンテナショップの機能と役割。三重県は1年前に東京・日本橋にアンテナショップ「三重テラス」をオープンした。
「アンテナショップには自治体や特産品のPRだけでなく、マーケット情報を生産現場にフィードバックし、商品力を高め、販路を拡大する機能が求められている。期待通りに機能しているか、修士論文で検証したい」。集大成に向け、気持ちは高まる。
「売れる特産品を生み出すことで、地域農業が元気になるようなモデルケースを増やしていきたい。一方で、行政として民間活動にどこまで関与できるのか、難しい側面もある」
「最良の一手を探る日々はこれからも続く」
(中野)

売れる特産品を生み農業が元気になるように